

巻頭特集

君の情報は大丈夫か？

—— 国家による大量監視の実態に迫る

いま急速に監視社会化が進んでいる。そう言われるとすぐに街角や駅に設置された監視カメラを連想するかも知れないが、監視の方法はそれだけにとどまらない。すでに人々の生活に欠かすことのできないものになっているスマートフォンやインターネットなどを通して、国家は私たち一人一人の情報を集めることが可能になっている。日本政府は一般市民の個人情報を大量無差別に収集し監視するシステムを手にかけているとも言われる。ここではその実態を探り、なにが問題なのかを考えたい。



巨大なゴルフボールのような球形のドーム。内部には宇宙空間の通信衛星を捕捉するパラボラアンテナが格納されている。衛星を介して交信される私たちのメールや通話を含むすべての通信を傍受するための施設だ。筑紫平野の東端、福岡県久留米市に隣接する太刀洗町に置かれた自衛隊の通信所には大小11基のドームが並ぶ。広く北東アジアをカバーするこの施設が自衛隊の基地であることは地元の人たちにも知られているが、国民のプライバシーに立ち入る諜報システムが作動していることは知らされていない。